

平成27年上半期名古屋北労働基準監督署管内の労働災害

特集

死傷者数は367人で、前年同期比1人増加

名古屋北労働基準監督署

(表1) 平成27年・26年名古屋北労働基準監督署管内労働災害発生状況(1月～6月)

業種	発生件数		業種	発生件数	
	27年	26年		27年	26年
小計	88	67	土石採取業	0	0
食品製造業	22	15	建設業	27(1)	34(2)
繊維工業・繊維製品製造業	2	0	道路旅客運送業	13	15
木材木製品・木製家具製造業	2	3	道路貨物運送業	43	48(1)
紙加工品製造業・印刷製本業	12	12	陸上貨物取扱業	14	8
化学工業	8	3	商業	56	76
窯業・土石製品製造業	1	2	金融・広告業	10	5
鉄鋼業・非鉄金属製造業	1	1	保健衛生業	17	12
金属製品・金属家具製造業	17	16	接客娯楽業	20	33
一般機械器具製造業	8	7	清掃業	9	7
電気機械器具製造業	4	2	ビルメンテナンス業	20	19
輸送用機械器具製造業	3	0	その他の事業	49	39
その他の製造業	8	6	合計	366(1)	363(3)

()内は死亡者数で外数である。

名古屋北労働基準監督署管内の平成27年1月から6月までの上半期にお

ける労働災害発生状況は、(表1)のとおり死傷者数は367人と前年同期

に比べ1人増加しました。死亡者数は、前年より2人の減少となっています。

業種別で見ると建設業、道路旅客運送業、道路貨物運送業、商業、接客娯楽業が減少した一方で、製造業で大幅な増加、陸上貨物取扱業、金融・広告業、保健衛生業等が増加しています。製造業では、食品製造業や化学工業において増加が目立っております。

死亡災害は、建設業における墜落が1件発生しています。

休業4日以上以上の災害366人について同様に事故の型別災害発生状況(表2)で見ると、「転倒」災害で72人と休業災害の全体の19.7%を占め、「墜落・転落」災害で70人(19.1%)、「はさまれ・巻き込まれ」災害で40人(10.9%)が被災しており、依然としてこれら3つの型(在来型の災害)で全体の約5割を占めています。

災害の特徴としては、「転倒」、「激突」、「飛来・落下」、「切れ・こ

(表2) 事故の型別災害発生状況 (人)

事故の型	27年 発生件数	26年 発生件数
墜落・転落	70(1)	89(2)
転倒	72	64
激突	37	26
飛来・落下	13	12
倒壊・崩壊	17	14
激突され	11	13
はさまれ・巻き込まれ	40	57
切れ・こすれ	30	25
踏み抜き	2	0
高温・低温の物との接触	5	7
有害物等との接触	3	0
感電	1	1
火災	1	1
交通事故	39	28(1)
動作の反動・無理な動作	20	23
その他	5	2
分類不能	0	1
合計	366(1)	363(3)

()内は死者数で外数である。

すれ」、「交通事故」等の災害が増加している反面、「墜落・転落」、「激突され」、「はさまれ・巻き込まれ」等の災害に減少が見られます。

第12次労働災害防止推進計画に掲げる重点業種である製造業及び建設業における重篤災害防止対策、陸上貨物運送業、第三次産業の小売店・飲食店・社会福祉施設等の災害多発業種に対する取り組みを中心に対策を引き

続き推進することとしております。各事業場におかれても災害防止対策の充実にご協力をお願いします。

また、厚生労働省と労働災害防止団体は多発している「転倒災害」を減少させるために本年1月20日から12月31日までを実施期間として「STOP! 転倒災害プロジェクト2015」を実施しております。転倒災害防止対策の徹底を併せてお

願いたします。

なお、労働災害防止対策を進めるに当たって、職場に潜在するリスクを適切に把握し、許容されざるリスクへの低減措置を確実に講じることが重要であり、ヒューマンエラーが労働災害に至らないよう安全・安心な職場の実現に向け、労使一体となった取り組みを進めていただくことを重ねてお願いいたします。

夏の華

今川英明

9月上旬に行なわれる、四方を山々に囲まれた諏訪湖新作花火大会です。心身に響きわたる爆音と、空に咲く花火の美しさに目を奪われながら、シャッター

表紙のことば

1を切りました。市街地が明るく浮き出るよう、二重露出で撮りました。

データ
カメラ キヤノンE0
S5DマークIII
レンズ キヤノンズー
ム28-70F2.8